４．保証債務

当該事業年度末における債務保証の総額　1,199,073千円

５．利益剰余金のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額の累計	24,681,831千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費の累計	15,671,881千円
利益剰余金に与える影響額（差引き）	9,009,950千円

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの収益化額が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産について、承継時に負債として計上していた額のうち、資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する当該負債の収益化累計額　1,092,063千円

⑶　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　69,752千円

⑷　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　204,470千円

10,376,235千円

６．土地の譲渡に伴う資本金の減少

名　　称	職員宿舎用地の一部
帳簿価額	0千円
面　　積	10,984.58㎡
所 在 地	北海道旭川市緑が丘２条４丁目
譲渡理由	遊休資産整理のため
譲渡収入の額	23,894千円
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付額の算定に当たり譲渡収入より控除した費用の額	1,970千円
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付額	10,962千円
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付が行われた年月日	令和７年３月31日
減 資 額	163,909千円

Ⅲ．損益計算書

当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

１．国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額	1,049,368千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	423,431千円
当期総利益に与える影響額（差引き）	625,938千円

Ⅳ．キャッシュ・フロー計算書

１．資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目との関係

資金の期末残高は貸借対照表における現金及び預金と合致しております。

現金及び預金	6,869,878千円
資金期末残高	6,869,878千円

２．重要な非資金取引

⑴　ファイナンス・リースによる資産の取得	356,406千円
⑵　現物寄附による資産の取得	42,682千円
⑶　資産除去債務の計上	49,074千円

Ⅴ．国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

１．業務費用

⑴　損益計算書上の費用	32,910,297千円	
⑵　（控除）自己収入等	△ 27,394,866千円	
業務費用合計		5,515,430千円

２．資本剰余金を減額したコスト等　61,831千円

３．機会費用

国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	―千円	
政府出資の機会費用	10,330千円	
無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用	―千円	10,330千円

４．（控除）国庫納付額　―千円

５．国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト　5,587,592千円

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の計上方法

⑴　政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

決算日における10年もの国債（新発債）の利回りは、「国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の算定に係る利回りについて（通知）」（令和７年４月11日付け７文科高第28号）に基づき、1.485％で計算しております。

Ⅵ．減損会計関係

１．減損を認識した固定資産

用　　途	生殖細胞培養加工設備
種　　類	工具器具及び備品
場　　所	北海道旭川市緑が丘東２条１丁目
帳　簿　価　額	22,146千円
減損の認識に至った経緯	取得時に想定していた稼働が著しく低下したため。
減損額のうち損益計算書に計上した金額	22,146千円